

1967

年(頃)

タイトル

長浜南小学校開校

概要

西黒田・神田・六荘の3小学校が統合し、1967年に長浜南小学校が創立された。

校舎は1970年3月に完成し、同年4月1日から授業が開始された。

その後、2006年に新校舎が建設され、現在430名程の児童が通っている。



1973

年(頃)

タイトル

県立長浜農業高校移転

概要

明治29年に蚕糸業組合立簡易蚕業学校として開設して以降、名称や場所を変えて、1973年に現在の名越町に移転した。

現在は、農業科1、園芸科1、食品科1の3学科3学級制。

学校の敷地面積は19ha。実に東京ドーム4個分の面積を誇る。

文化祭と体育祭をあわせた学園祭のほか、春と秋には地域の人々が多数来校され、大いに賑わう「農産物販売会」が開催されている。



1974～
年(頃)

タイトル

六荘地区区画整理事業

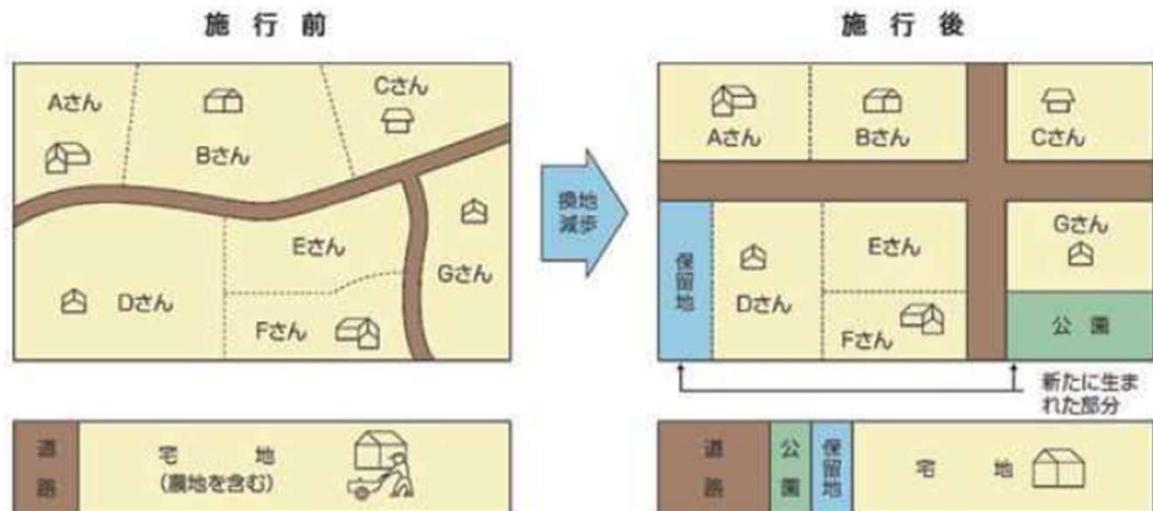
概要

土地区画整理事業は、道路、公園、河川等の公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え宅地の利用の増進を図るため、土地の区画形質の変更、公共施設の新設または変更を行う事業。六荘地区では80年代から90年代にかけて大規模な区画整理事業が行われ、まちの様相が大きく変わった。



土地区画整理事業の仕組み

東高田	1974-1978
大成亥	1987-1993
東高田東	1987-1989
平方・地福寺	1988-1997
勝	1992-2003
下坂浜	1992-2001
南高田	1996-2003
四ツ塚	1997-2003
室	2019-2025



1974～
年(頃)

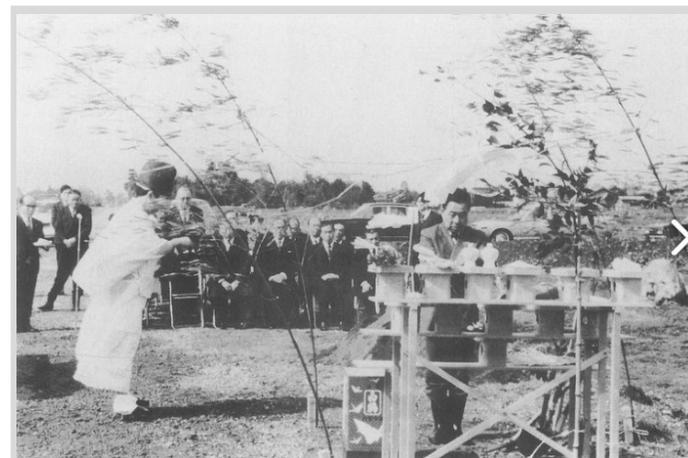
タイトル

西黒田・神田・六荘南地区 圃場整備整理事業

概要

農地への安定した水供給と排水を整備する
かんがい排水事業に引き続き、不整形な農
地の区画整形をい、用水路、排水路、農道
などを一体的に整備する圃場整備事業が70
年代～90年代前半に行われ、農地の風景は
一変した。効率性・生産性は飛躍的に改善
したものの、農業に固定化された生産基盤
は、後継者の転出につながり、大規模農業
者が耕作を担うようになると、地域への愛
着が希薄化した。

最近では、2019年から室区の区画整理
事業が開始。約200戸の住宅地が造成さ
れる予定。



写真など



1975

年(頃)

タイトル

滋賀文教短期大学開校

概要

学校法人松翠学園により運営されている私立大学。「信義・至誠・質実・温和・漸進」を建学の精神として、1975年に岐阜県から移転し、現在に至る。

国文学科と子ども学科の2科からなる。

国文学科には、全国的にも珍しい「書道」に関する専門コースがある。

保育士、司書、教員(二種)等の資格取得が可能。



1978

年(頃)

タイトル

サイクリングターミナル完成

概要

1977年、自転車交通システムの方向性を探るため自転車交通開発調査を実施。

「人間尺度のまちづくり」の一環として、交通システムの基本方針を提唱した。

そのなかで提唱されたのが、市街地と周辺部を結ぶサイクリングロードの整備やサイクリングターミナルなどの施設整備、自転車駐車場の整備だった。

1978年4月、四面山の麓に完成。米原市の三島池やびわ湖、姉川など、周辺の自然や名所、旧跡などを自転車で巡る最適な場所にあり、家族やグループなどでの利用で好評を得た。

しかし施設老朽化や利用者の減少から、2015年3月31日に閉鎖となった。



写真など

1980

年(頃)

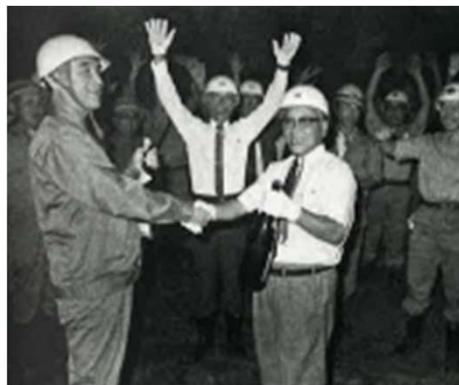
タイトル

北陸自動車道完成

概要

北陸自動車道は敦賀以北が先に完成しており、1980年4月7日に県内区間が完成し、米原から富山に至る全線が開通した。

東海道経済圏と北陸経済圏を結ぶこの高速道路は、沿線の経済基盤に大きな刺激を与えるものと期待された。



1982

年(頃)

タイトル

特別養護老人ホーム青浄苑完成

概要

社会福祉法人 青祥会が運営する特別養護老人ホーム「青浄苑」が、加田町に完成。定員117名、うちショートステイ13名。



1986

年(頃)

タイトル

国道8号バイパス全線開通

概要

市民会館を核とする官庁街の整備を目指す「新市街地形成事業」をテコに、難色を示す国の重い腰を上げさせるため、用地の寄付や先行買収するなど、市が熱心に取り組んだ国道8号バイパス誘致。

1966年の事業化決定から、20年の歳月を経て、長浜市神照町から米原市顔戸の全8.2kmが全線開通した。



1990

年(頃)

タイトル

長浜中央卸売市場開場

概要

1966年に開場した長浜食品地方卸売市場が、老朽化、用地の狭あい、周辺住宅化による環境面から、移転整備することとなった。

県下初の第3セクター方式で整備することとなり、1990年に田村駅前に移転開場した。

移転により来場者も増加し、品揃えも増えた。また、毎年田村町と共催で、市場夏まつりが開催され、朝市も土日開催するなど、市民にも親しまれる市場づくりが行われている。

しかし近年は施設老朽化や来場者の減少、大型スーパーの出店による競合など、苦境に立たされている。



1992

年(頃)

タイトル

長浜ドーム開場

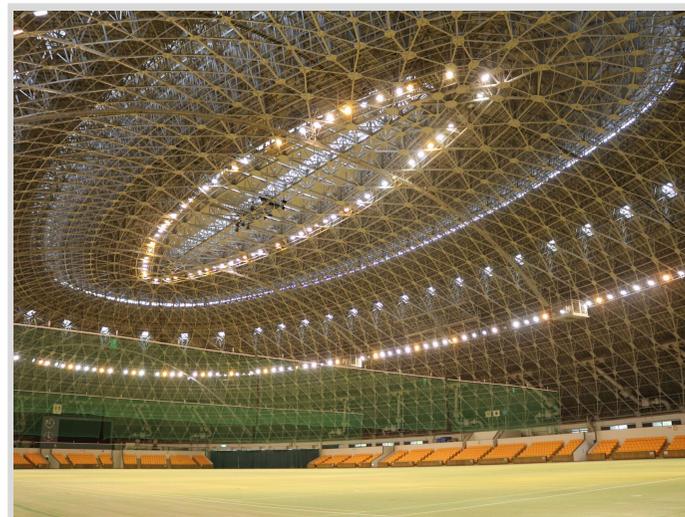
概要

1981年の豪雪時「雪の中でも運動できる施設があれば」という思いが市民運動となって実現した。

運動の中心となったのは、将来の長浜市の発展を探ろうと組織された「ながはま21市民会議」だった。

市民会議は「若者の定着が進まない地域の活性化のために、ぜひ全国に誇れる全天候型競技場施設を湖北に誕生させよう」と、建設運動が巻き起こった。

こうして1992年、1万㎡の屋内グラウンドを持つ長浜ドームが開場した。これまで会場問題で難しかった全国規模のスポーツ大会や大規模イベントも可能となり、湖北・長浜のシンボル施設として今日まで利用されている。



1993

年(頃)

タイトル

長浜メディケアセンター完成

概要

社会福祉法人 青祥会が運営する介護老人
保健施設「長浜メディケアセンター」が、
加田町に完成。
施設入所104名、通所リハビリテーショ
ン40名。



1995

年(頃)

タイトル

六角館 (現:六荘まちづくりセンター) 開設

概要

中世において下坂荘・加田荘・楞巖院(りょうげんいん)荘・八幡荘・平方荘・坂田荘の六つの荘に分かれていたことに因んで六荘と命名された地域。

現在の六荘地区は、18町(24自治会)によって構成されている。

1995年に完成した新たな六荘公民館は、六荘を表す六角形の外観が特徴で、講座や教室、サークル活動等が活発に行われている。



1996

年(頃)

タイトル

市立長浜病院移転開院

概要

1944年に長浜駅付近に開設された市立長浜病院は、その後1959年に八幡東町(現:長浜市役所の場所)に移転。1986年に中央棟が完成。その後老朽化や施設の狭さ、周辺環境への考慮などから、1996年に現在地に移転、開業した。

一般病床461床、療養病床104床計565床を有し、総合病院として地域医療のけん引役を担っている。

現在、医師の働き方改革から、長浜赤十字病院、市立湖北病院との再編が必要不可欠となり、議論が続いている。



2002

年(頃)

タイトル

新横山トンネル開通

概要

長浜市鳥羽上町と米原市菅江を結ぶトンネルが完成。全長356m。対向1車線で歩道も整備された。

旧横山トンネル(横山隧道)は、1923(大正12)年建造、延長163.6m、幅員4.5m、全高4.2m。

総煉瓦造りの馬蹄形隧道、典型的な冠木門型坑門を持ち、ピラスターが笠石上に突き出しているのが特徴的。

2021年、公益社団法人土木学会が選定する「選奨土木遺産」に登録された。

※写真上：新横山トンネル
写真下：旧横山トンネル



2002

年(頃)

タイトル

長浜サイエンスパーク分譲開始

概要

企業等名	竣工年月	全体面積 (m ²)
長浜インキュベーションセンター	平成18年4月	
イオンディライト株式会社	平成22年2月	5,287
マリンフード株式会社	平成24年10月	11,597
山岡ヤマゼン株式会社	平成22年11月	3,597
星野科学株式会社	平成20年9月	4,271
マルホ株式会社	平成23年1月	9,839
ピアスグループ サイアヤファーム株式会社	平成23年3月	11,510



「新規バイオ産業等拠点の形成」「産学交流拠点の形成」「人材の育成」「自律した産業拠点の形成」という4つの柱をコンセプトに、2002年に長浜サイエンスパークを整備。

バイオテクノロジー関連産業の集積を図るとともに、ベンチャー企業などのバイオ産業創出システムの構築を図り、研究開発から生産まで行える新規バイオ産業拠点の形成を目指している。また、バイオ産業創出においては大学等の研究機関の持つ情報、研究成果を技術移転し事業化することが重要であり、産学交流拠点の形成も合わせて目指している。

2003

年(頃)

タイトル

長浜バイオ大学開校

概要

1944年、医科大学の設立構想が興り、翌45年には設置許可が下りたものの、戦況悪化に伴い断念した。

その後1975年に滋賀文教短期大学誘致に成功。さらに4年生大学誘致に向け、1980年には国際民族工芸大学等の誘致構想があったが、いずれも実現には至らなかった。

1980年「ながはま21市民会議」が立ち上がり、民間中心でまちづくり運動が活発化し、JR直流通ととともに、4年生大学の誘致にも粘り強い運動を続けた。

その甲斐あって、長浜バイオ大学並びにサイエンスパークの整備が決まり、2003年に日本初のバイオ単科大学として開校した。



2006

年(頃)

タイトル

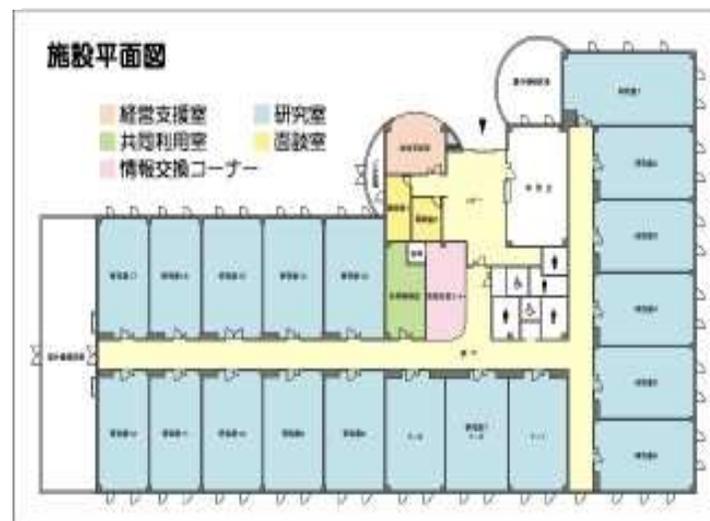
長浜バイオインキュベーション センター開設

概要

長浜市におけるバイオ関連分野の創業および事業化を支援することにより、産業の振興と雇用の確保を図るため、長浜市が建設した施設。

大学誘致が実現した際「大学の存在だけではまちづくりには繋がらない。大学から研究が波及して新たなビジネスが長浜に定着するモデルを作らなければならない」との思いから、2006年に開設された。

共同研究やビジネスマッチング、創業支援など新たなバイオビジネス創出を模索している。



2011

年(頃)

タイトル

西黒田まちづくりセンター開設

概要

西黒田地域のまちづくりの拠点施設。2011年に新築された。

ホール、研修室、和室、調理室、工作室等を備え、講座や研修等に幅広く利用されている。

駐車場には、西黒田のまちづくりのシンボル「金太郎像」が建つ。



2015

年(頃)

タイトル

田村駅東地区等市街地編入

概要

2012年に田村駅東西の一部が市街地編入されたことに続き、田村駅周辺地域における学術・文化・産業等の集積を活かしながら、長浜市の南玄関口にふさわしい機能を導入し、新しい都市の創造を先導する拠点として計画的な市街地形成を図ることを目標に、田村町の既存住宅区域も市街地へ編入された。



2018

年(頃)

タイトル

田村駅周辺整備基本計画策定

概要

長浜市では、田村駅を中心とした周辺地域の計画的な市街化を誘導するため、「田村駅周辺整備基本構想」を2016年10月に策定した。

この構想実現に向けた具体的な整備の内容、手法等を、学識者や地元自治会、地域づくり協議会などで構成する「田村駅周辺整備基本構想推進会議」や、駅利用者ワークショップでの検討を踏まえて、「田村駅周辺整備基本計画」を2018年に策定した。

計画には、駅及び周辺の整備や、住宅地整備の促進、地域の魅力発信等が盛り込まれている。

計画期間はおおむね2027年まで。



2024

年(頃)

タイトル

(新) 神田まちづくりセンター開設

概要

神田地区のまちづくり拠点施設。現在の建物は老朽化により、2024年完成を目指して建て替え工事の計画が進んでいる。

現在のまちづくりセンター東隣には、1935年に建てられた神田尋常高等小学校講堂が現存し、館講堂として活用されているが、こちらも改築と同時に取り壊しが予定されている(写真上)。



202X

年(頃)

タイトル

(仮称) 神田スマートIC開業

概要

202X年、神田PAに(仮称)神田スマートICが開業予定。

